



青森県漁業士会会報

24.3 vol.19

浜風

HAMAKAZE

発行：青森県漁業士会

青森県水産振興課内

TEL 017-734-9592

編集：「浜風」編集委員会



平成23年度青森県漁業士会総会開催



平成23年5月13日（金）に青森市新町1丁目「アラスカ」において、青森県漁業士会通常総会が開催され、平成23年度の事業計画等について審議が行われました。また、総会に引続き行われた研修会では、（地独）青森県産業技術センター水産総合研究所吉田達ほたて貝部長による「異常高水温によるホタテガイ大量へい死について」と兜森良則資源管理部長による「青森県外海域における主要魚種の漁獲動向について」と題した講演が行われました。お二方には、22年夏の異常高水温による陸奥湾のホタテガイ大量へい死や、外海の漁獲資源の変動についての解説と今後の漁業活動について助言していただきました。参加者は、「詳細なデータを基に解説してもらい参考になった。限りある水産資源を有効に活用し魚価の向上を図るためには、これまで以上に工夫して対処していく必要である」との認識を深めました。



新会員の紹介

平成23年度、新たに2名が指導漁業士に、5名が青年漁業士に認定されるとともに、6名の青年漁業士が指導漁業士に移行しました。

○東青漁業士会



後潟漁協

神山 義行

(ホタテガイ養殖、底建網漁業)

この度、青年漁業士の認定を受けました神山です。

ホタテガイ養殖業の毎年、同じ結果とならない自然現象の影響の中で、生き物を育てるといふ難しい壁にぶつかる日々です。

漁業士会の活動を通じて、諸先輩漁業士の方々から幅広い知識・技術・経験を学びながら、次の世代に繋げていくためにも、努力していきたいと思っております。



平内町漁協清水川支所

井筒 栄一

(ホタテガイ養殖)

指導漁業士の認定を受けましたが、まだまだ経験が浅く諸先輩方から学ぶことばかりです。

今後も漁業士の1人として様々なアドバイスができるよう、助言や経験を生かした「考えるホタテ養殖」に取り組んで行きたいと思っております。



平内町漁協清水川支所
田中 祐之
(ホタテガイ養殖)

私はホタテガイ養殖をしておりますが、一昨年には猛暑でホタテガイが死滅し先が見えず、さらには大きな震災もあり不安な1年間でした。しかし、家族・漁業者同士の絆を強く感じられた年でもありました。本年は東青漁業士会及び会員の皆様のお力をお借りし、更なるホタテガイ養殖業に邁進して参りたい所存です。



平内町漁協清水川支所
阿保 正人
(ホタテガイ養殖)

この度、指導漁業士の認定を受けました阿保です。私はホタテ養殖を主としていますが、昨年の高水温のため大量へい死が起き大変でしたが今後は、関係機関と連携しながら情報交換し素早く解決して行きたいと思っております。まだ未熟ですが漁業発展のため頑張っていきますので、今後ともよろしくお願い致します。

○むつ支部会



川内町漁協
八戸 洋子
(ホタテガイ養殖)

指導漁業士に認定されました川内町漁協の八戸です。川内地区では、漁業士は「男の世界」という認識が定着していましたが、女性漁業士として推薦・認定され、大変光栄に思っています。私は、家業であるホタテガイ養殖業を夫と経営し、その作業に携わっています。このことから、女性の立場で漁業を考えることが多く、今後、多くの女性漁業士等とそれら意見交換できることを大変期待しています。

漁業士1年生として、そして浜のリーダーとして恥じないよう「かあちゃんパワー」で頑張ります。皆様、よろしく御指導願います。



川内町漁協
福永 純子
(ホタテガイ養殖)

指導漁業士として認定されました福永です。漁業士として何ができるか、これから情報交換・交流を通じて一つ一つ学びながら、地域の活性化につなげたいと思っております。また、何事も初めての事なので、実施される事業などには自分ができる範囲で積極的に参加するように努め、そして、その成果を地域に普及させることができるよう、頑張りたいと思っておりますので、御支援・御指導のほど、よろしくお願い致します。



横浜町漁協
杉山 亘
(ホタテガイ養殖)

指導漁業士に認定されました横浜町漁協の杉山です。ホタテガイ養殖業を経営しておりますが、一昨年夏季のホタテガイ大量へい死では、ホタテガイ養殖業の存続を危惧するまでに大打撃を受けました。

しかし、県・町・漁協等の支援を受けながら、現在、ようやくホタテガイ養殖の復活の兆しが見えてきたところです。指導漁業士としての今後は、地域漁業発展のため、各地区の漁業士の皆様及び関係機関と連携しながら魅力ある漁業を目指して研鑽して参りますので、今後ともよろしく御支援、御協力をお願い致します。



石持漁協
杉本 順
(小型定置網漁業)

指導漁業士に認定された杉本です。小型定置網漁業を主体として、春季はヤリイカ、サクラマス、秋季からはサケ、ヒラメ等を対象とした漁業を営んでいます。最近は定置網の天敵である大型クラゲの来遊はなく、経営が逼迫することはありませんが、気をゆるめることなく、経営安定を目指していきたいと考えているところです。

今後は、青年漁業士時代に蓄積した知識とネットワークを十分に生かし、各関係機関の皆様御指導・御協力のもと、地域漁業の発展のため頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。



脇野沢村漁協

松浦 忠男

(ホタテガイ養殖)

指導漁業士の認定を受けました松浦です。

まだまだ未熟ではありますが、これまで青年漁業士として活動して得たことを糧とし、本県・地域の漁業振興に貢献していきたいと思ひます。

また、皆様の指導を仰ぎながら、地域振興のため鋭意努力して参りますので、今後ともよろしくお願ひ致します。

指導漁業士

青年漁業士

○日本海支部会



新深浦町漁協

伊藤 智之

(底建網漁業、まぐろ一本つり漁業)

この度青年漁業士に認定をいただき、関係者の皆様には大変お世話になりました。漁業士会活動を通じ、諸先輩から幅広い知識や優れた技術を学びながら一人前の漁業士になれるよう、努力して参りますのでよろしくお願ひいたします。



風合瀬漁協

小野 貴世孝

(底建網漁業、まぐろ延縄漁業)

この度青年漁業士の認定を受けました小野です。私は乗組員として漁業に携わっていますが、まだまだ学ぶことがたくさんあると感じております。自分なりに頑張りたいと思っています。今後、他の漁業士の方の情報などを参考にいろいろ取り組んでいきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。



風合瀬漁協

坂崎 祐也

(底建網漁業、まぐろ延縄漁業)

この度、新しく青年漁業士になりました坂崎祐也です。底建網漁業に従事して10年になりますが、これまで地元の漁業しか知りませんでした。今回の青年漁業士の認定を機に、他の地域の方々と交流してよりよい漁業を目指していきたいように頑張りたいと思ひます。



風合瀬漁協

山本 智史

(底建網漁業、まぐろ延縄漁業)

この度、青年漁業士に認定された山本智史です。私は、夏はマグロ延縄漁、秋からは底建網などをやっていますが、漁業を取り巻く環境は年々厳しくなる状況です。特に今年はシケが続いており漁に出られない状況が続いています。しかし、諦めず、体が資本の仕事なので怪我だけには気をつけて操業していきたいです。まだ青年漁業士の経験がない私ですが、関係機関のご指導を得ながら頑張っていきたいと思ひます。これからよろしくお願ひします。



支部会トピックス

○むつ支部会

去る7月28日(木)、むつ市川内町において地方独立行政法人青森県産業技術センター下北ブランド研究所の職員の協力のもと【青森県漁業士会むつ支部会と川内地区漁業者との魚介類の鮮度保持に係る実践講習会を通じた交流】と題して、魚介類の鮮度保持に係る実践講習会を企画・開催しました。

地元からは、川内町漁協青年部・女性部を中心に近隣の女性団体等が多数参加し、総勢50名よる活アイナメ、100尾を教材とした活きめの実践講習会が実施されました。

また、実践講習後の交流会では、鮮度保持を施したアイナメと通常の形態で出荷されるアイナメの刺身等を酒の肴に、生産現場における鮮度保持技術の導入の必要性について認識を高めました。

このほか、毎年恒例の「生産者による豊漁・豊作祈願祭」を開催し、魚食普及に努めました。来年も各種活動において魚食普及に努めていきたいと考えています。



○東青漁業士会

1. ほたてキャラバン隊出前講座

東青漁業士会では、平成20年度からほたて流通振興協会の依頼を受けて、小学校へ漁業士を講師として派遣しています。今回は、今年度講師として派遣された漁業士の感想を聞きました。

平内町漁協清水川支所 船橋 智

天間東小学校の子供達は皆、素直でした。子供達から学ぶ事も多かったと思います。話も、真剣に聞き、料理も頑張って作っていました。話を聞いて、1人でも漁業に興味を持ってもらえたら嬉しいです。

そして、将来は漁師にと考えてくれたら最高です。子供達とすごした1日、本当に忘れられません。天間東小学校の皆様ありがとうございました。



平内町漁協清水川支所 江戸英子

ほたてキャラバン隊とは、青森県ほたて流通振興協会で、小学生にもっとほたてを知って頂く事です。平成23年11月24日（木）に七戸町立天間西小学校に行きました。

5年生生徒は2クラス一緒に42名でした。

小学校には、前もってミニ展示場にほたてのパネル展示をしてありましたので少しは理解していた事もありました。

当日は、カップズボン、救命胴衣姿で紹介して

キャラバン隊長とのトークでほたて養殖の体験談をスライド等を見ながら進行しました。

初めての体験なのでとても緊張しました。

耳吊体験、ベビーほたてを使った「ホタテカレー」「バター焼」等の調理体験では、班ごとに別れて作った料理は、とてもおいしかったです。

生徒達にほたては、どんな食べ方が好きか聞いたら「ほたてはサシミで食べるのが一番」との言葉に嬉しく思いました。

養殖業は苦勞も多くたいへんな仕事ですがこれからも頑張っていきたいと思います。



蓬田村漁協 田中 張寛

三沢市立おおぞら小学校 5年生は大変礼儀正しく、元気な明るい子供達です。

ホタテ養殖の話真剣に聞いてました。

多くの質問があり説明に大変苦勞しました。

ポイルウロ取り体験はきょうにウロを取り感心しました。

ホタテの嫌いな生徒が1人いて最後までホタテを食べれませんでした。残念！！

また機会があったら出前講座に行きたいと思います。



2. 青森市市場食育祭り

平成23年10月2日、青森市中央卸売市場において開催された青森市市場食育祭に参加しました。当日は会員16名が参加し、ベビーほたてのバター焼きとイカ焼きを販売し、魚食普及のPRを行いました。更に、今回は、消費者のニーズや東青漁業士会の活動の認知度を把握するために、店頭でアンケート調査を行いました。当日は悪天候であったにもかかわらず、多数の来場者があり、用意したものは完売しました。



○日本海支部会

漁業士会日本海支部会が6月7日に十三湖の海岸で海浜清掃を行いました。12名の会員と鱒ヶ沢水産事務所職員の計19名が参加しました。短い時間の間に沢山のゴミが集められ、用意したゴミ袋が足りなくなるほどでした。ゴミの中には外国語が記載されたものも多く見受けられました。ゴミの処理には十三漁協及び五所川原市農林水産課のご協力を頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。



〇三八漁業士会

鮫浦漁協小型船部会が日本農林漁業振興会会長賞を受賞しました。

この度、平成23年度「第50回農林水産祭」において、名誉ある日本農林漁業振興会会長賞を受賞した事は、大変光栄に存じております。

これも偏に、地域の方々や関係各位の御支援指導の賜であり、御尽力いただいた皆々様に感謝申し上げます。

昭和62年「つくり育てる漁業」を推進する為、青森県栽培漁業振興会が設立され、「ヒラメ」が県の魚に指定されました。

平成2年からは、稚魚の放流が始まり、資源管理面からヒラメ資源管理指針が設定され、全長35cm未満の再放流が行われています。

今後も、多くの魚が獲れる豊かな海で、再放流が可能な曳き釣り漁法を用いて、地域漁業者の方々と共に消費者に安心して食される「品質の高いヒラメ」を安定して供給できるよう、各関係機関の協力をいただきながら、これからも頑張っ

関野 稔



平成23年度日本海ブロック漁業士研修会

日本海支部会 長内詩子

今年度の研修会は、12月1日に鳥取県米子市で開催されました。10月に幹事県である鳥取県で全国豊かな海づくり大会が行われた都合で、例年よりも遅い時期の開催となりました。ちょうどこの時期、日本海ではハタハタ漁などで忙しく、参加県は1府5県（日本海ブロックは1府11県）と少ない状況でしたが、予定時間をオーバーするほど活発に質疑応答・意見交換が行われました。

話題提供として「美保湾産直ブランド創出（漁業者と流通業者の連携による産地直送の取組み）」と題し、地元鳥取県で小型底引き網を営んでいる指導漁業士の方から、グループ制による直販への取組について報告がありました。

講演では、「6次産業化に向けて生産者が意識すべきこと」と題し、（財）鳥取県産業振興機構の大野マネージャーから報告がありました。6次産業化という時宜に合ったテーマで大変興味深く拝聴しました。

翌日は現地見学の 일환で、日本でも有数の漁港である境港を見学しました。折悪しくシケ続きで水揚げやセリなどの光景はみられませんでしたでしたが、前日設置されたばかりという選別機をみる事ができました。これは鳥取県が1億8千万円かけて、巻網漁業用に2台整備したもので、これまで雑魚込みのタンク売りだったものをこの機械で選別することにより少しでも魚価の向上を目指すとのことです。

いずれの県でも魚価の低迷を打破すべくいろいろな取組を行っていると感じられました。





女性漁業士交流会について

(平成23年8月22日～23日 青森市)

平成23年8月22日(月)に県内の女性漁業士8名が参加して、青森市浅虫温泉「椿館」において研修会が開催されました。東地方保健所の健康増進課野宮富子課長による「いつまでも健康で若々しく過ごすために」と題した講演の後、懇親会では女性漁業士の取組みや今後のあり方等について活発な意見交換がなされました。なお、本県で開催予定の「東日本女性漁業士交流会」は、東日本大震災の影響で延期になりましたが、今回は、県内の女性漁業士による研修会を行ったものです。



第53回青森県漁村青壮年女性団体

活動実績発表大会について

平成23年9月14日、青森市の県民福祉プラザにおいて「第53回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会」が開催され、3人の発表者がそれぞれの研究テーマに沿って、その活動の実績を発表しました。発表内容は、県や漁業関係者など14名の審査員によって審査され、優秀賞に「赤石水産漁業協同組合 青年漁業士 松山和江さん」が選ばれ、平成24年3月1日～2日に、東京都千代田区のグランドアーク半蔵門で開催された「第17回全国青年・女性漁業者交流大会」において、本県代表として発表し、全国漁業協同組合連合会会長賞を受賞しました。



第17回全国青年・女性漁業者交流大会

1 純国産・極上の海峽サーモン ～6次産業化に向けた販売戦略～

北彩漁業生産組合 濱田 勇一郎

大畑町漁協の漁業基盤であるスルメイカを待って獲る漁業から、つくり育てる漁業へと転換するため、収益性の高い魚類養殖を目標に「海峽サーモン」の養殖に取り組んだもので、魚価の低迷や知名度の低さ、安価な輸入品の台頭など多くの困難を乗り越えてきた。

また、大畑海峽サーモン祭の開催や即売会の開催などによるブランドカアアップと販売促進を図るため、高品質な加工品の開発にも取り組んだ。

2 三厩産「津軽海峽一本釣本まぐろ」～品質管理で極上のまぐろをつくる～

三厩村漁業協同組合 三厩まぐろ一本釣部会 伊藤 大作

三厩村漁協では、スルメイカやヤリイカなどの回遊魚の水揚げや魚価の低迷から、平成11年にマグロ一本釣り漁業が復活したものであり、限りある資源を有効に利用するために実施した、品質管理の取り組みが地域の活性化へとつながった。

また、部会を結成して、漁獲から出荷までの品質管理の体制が整備、実践され、今では、漁獲金額が全体の6割以上を占めるまでに成長した。さらに、三厩秋の物産フェア・津軽海峽本マグロまつりにおいて、解体ショーや即売会などの各種イベントが催され、観光の目玉にもなっている。

3 おいしさに真心こめて ～生産者の顔が見える加工品作りと産直活動～

赤石水産漁業協同組合 松山 和江

赤石水産漁協の主な漁業である底建網漁業では、単価の高いヤリイカやヒラメなどのほか市場での評価があまり高くないホッケ、ウマズラハギやサイズが小さいイシダイ、アジなどが漁獲され、漁業者の家庭で自家消費されてきた。これらの水産物を産直施設で鮮魚のほか加工品を販売するため、総菜製造業、魚介類販売業等の許可を取得して、安心・安全な製品を作り地域の活性化に努力している。

また、地元の食材を使った料理教室や体験学習など、日頃の思いを地域の子供達に伝えていくことにも力を注いでいる。



東日本大震災にあって

三八漁業士会 深川修一

平成23年3月11日、午後2時46分頃、M9.0の大地震が宮城県沖で発生。

私は、倉庫で網を修理中で、突然激しい地震に身動きがとれない状態であった。その後の報道で津波が来ると消防車が連呼。乗組員全員で船の係留場所へ。その時船は修理中でエンジンが始動できない状態。

15:20頃 船到着。

15:47頃 オモテ、トモにもやい網をしっかりとる。

15:52頃 津波第一波、岸壁より30cm位水位が上昇、その後、引き潮で水位が5m位下がる。その間乗組員全員でもやい網をまたしっかりと取り直す。高台から、『大津波が来た、早く逃げろ』の大合唱！



16:46 第一波よりすごい勢いで第二波が押し寄せる。「アッ」という間に岸壁に船が乗り上げる。『早く逃げろ』の大合唱。

16:56 津波はものすごい勢いで市街地に押し寄せた。市街地は一面海水。船が見えなくなり心配したが30分位で水位が下がり、船発見。すぐに近づけず（無事であることを祈るのみ）。ブリッチ、ペラガード等に破損が有り、その後も何回も岸壁を上回る津波があり、船が移動しない事を祈る。

3月12日朝、点検に岸壁に行ったが岸壁を上回る津波が何度も押し寄せる。

15:00頃ようやく安心して船に近づける状態になった。



3月14日 海も落ち着き定置網の調査、垣網船が引係る。垣網、箱網ともダンゴ状態。この時漁の再開は“ダメ”かと思った。

3月18日 船修理開始。



4月1日 船進水。その間、仲間の〔興富丸〕の協力で垣網の撤去作業。

4月2日 全員での船修理、点検OK。



4月5日 日の出丸の最大難関の箱網・型の撤去作業。

6月4日 張の修理。



6月6日 油底ガレキの調査、潜水調査、土俵入れ4,200俵（200kg/俵）、その後、型入、網入と息つく暇もなく作業し、

7月15日 初水揚にこぎつけた。

この4ヶ月間朝早くから遅く迄ケガ人もなく、私も乗組員も作業をがんばることができたのは、皆様の励ましの言葉『へこたれるな！頑張れ！！』や応援があったからです。

今は、被害の大きさを重く受け止め、従来、それ以上の操業ができるように、国、県、市等の行政当局の特段の協力、支援をお願いして応援して下さった皆様に御礼を申し上げて終了します。

東日本大震災により被害を受けられました多くの漁業関係者の方々に心よりお見舞い申し上げます。
三八漁業士会 深川氏より特別に寄稿して頂きました。ありがとうございました。